

## モンゴル

### 経済の概況

2006年上半年及び7月のモンゴル経済は好調が継続している。国際市場における主要輸出品の価格の堅調と、順調な天候により、今年の経済成長率は昨年を上回るものと見られている。概観すれば、産業生産額は増加を続け、消費者物価上昇率は低下、貿易収支の赤字幅は縮小している。また、国家財政収支は6カ月連続して黒字を記録している。

6月の消費者物価上昇率は前年同月比2.2%で、前年同月の同17.8%から低下している。上半期中の上昇を見ると食料品と交通費が最も上昇しており、それぞれ年初から12.1%、8.8%の上昇となっている。また、6月末の為替レートは1ドル=1,172トグリグで、前年同月比で1.2%の増価となっている。

上半期の国家財政収支は1,338億トグリグの黒字、また7月は301億トグリグの黒字となった。経済の回復は税収を増加させ、上半期の財政収入額は前年同期比44.4%増となった。総税収額は同43.2%増で、税目別では関税が同30.3%増、付加価値税が同29.7%増、物品税が同31.4%増であった。5月に国会で成立した「偶然による利益に対する税法」に基づき、61億トグリグが徴収された。これは所得税総額の4.4%にあたる。一方財政支出額は予算額の87.9%に止まった。このうち87.9%が経常支出、8.6%が資本支出、3.5%が純貸付となっている。

上半期の産業生産額は、主に製造業の生産額の増加により前年同期比3.6%増となった。製造業の生産額は前年同期比16.4%増、エネルギー部門は同2.7%増となっている。一方、鉱業の生産額は金と石炭の生産の減少により、前年同期比4.8%減となっている。前述の「偶然による利益に対する税法」によると、68%から始まる高税率は、銅価格が2,600ドル/トンに、金価格が500ドル/オンスにそれぞれ上昇した場合に適用される。この税制によって、民間の鉱業者、特に金鉱業は生産を縮小しており、中央銀行に対する金の売却にも消極的となっている。また、鉱業者が法律で義務付けられている環境保全措置の実施に、非協力的であることなどから、国内の鉱業者、特に金鉱業に対する世論は厳しくなっている。一部地域では住民による抗議デモが行われ、一時的に休業に追い込まれるケースも出ている。このため、上半期の金の生産高は前年同期の4分の1程度に落ち込んでおり、7月の生産高も前年同月の半分に止まっている。

良好な天候に恵まれて、上半期には990万頭の家畜が生まれた。これは前年同期を120万頭上回る数字である。上半期において、牝ヤギの81.6%、牝羊の83.6%、牝牛の60.5%、牝馬の54.7%、牝ラクダの40.8%が産した。

上半期の貿易総額は12億ドルで、前年同期比39.1%増となっている。このうち輸出は6.12億ドルで同59.5%増、輸

入は6.17億ドルで同23.4%増であった。モンゴルの主要輸出品である銅、金の国際価格の持続的な上昇は輸出収入を拡大した。銅精鉱の輸出額は前年同期の2倍に達したが、その輸出数量は18.4%増加したにすぎない。66.0%増、非貨幣用金は同32.1%増となった。これらの輸出増により、貿易収支の赤字は前年同期の1億1,670万ドルから、560万ドルに縮小した。7月の貿易収支は90万ドルの黒字で、これは今年に入って4回目の月間の黒字である。上半期のモンゴルの輸出先は47カ国であるのに対し、輸入先は81カ国となっている。この状況はモンゴルの輸出の一層の多角化の可能性を示唆している。

### 建国800周年祝賀と小泉首相の訪問

モンゴルは今年、モンゴル帝国成立800周年を祝い、年間を通じて様々な祝賀行事を催している。それらは諸文明の間の橋渡しという、重要な役割を担ってきた遊牧文明に焦点をあてたものである。

2005年11月14日の第60回国連総会において、モンゴルが建国800周年を祝うことを歓迎し、以下の声明が出された。「自然との調和の中に生きる遊牧文明の文化は、自然界におけるデリケートな生態系のバランスを保全することを可能にしてきた。自然に適応する遊牧民族の能力は、今日の環境の危機への対応として、高く評価されるものである。」

首相を長とする国家委員会が、祝賀関連行事の監督及び調整を実施している。今年モンゴルを訪問した主要各国の首脳としては、韓国の盧武鉉大統領（5月7～10日訪問）、ロシアのフラトコフ首相（7月10～12日訪問）、そして日本の小泉首相があげられる。小泉首相は8月の10～11日の日程で、モンゴルを公式訪問した。これは小泉氏にとって二度目のモンゴル訪問であり、また彼はモンゴルを訪問した三人目の日本の首相となった。小泉氏の最初の訪問は1989年に、厚生大臣としてであった。また首相としては、それぞれ当時の海部首相が1991年に、小渕首相が1999年にモンゴルを訪問している。

今回の訪問を通じて双方は、日本とモンゴルの関係はこれまで専ら日本のODAに依存してきたが、今後はインフラ、教育、農村開発、環境部門への借款と技術援助を活用する形で、日本からの直接投資を拡大していくことが重要であると指摘した。小泉首相は日本の大企業が、モンゴルのタバン・トルゴイの石炭鉱床、オユ・トルゴイの銅・金鉱床における資源探査への投資に興味を示していると述べた。これに対しモンゴル側は、鉱業だけでなく製造業に対する投資も歓迎すると表明した。小泉首相は訪問中、日本人女性歌手オクヤマ氏が出演するオペラ"チンギス・ハーン"の第二幕を鑑賞した。今回の訪問及び3月に行われたモンゴルのエンクボルト首相の訪日は、次の10年に向け、両国間の協力体制を形づくるために重要なものであったといえよう。

(ERINA調査研究部研究員 エンクバヤル・シャグダル)

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年1Q	2006年2Q	1-6月	7月
GDP成長率(対前年比:%)	1.1	1.1	4.0	5.5	10.7	6.2	-	-	-	-
産業生産額(対前年同期比:%)	2.4	7.4	3.8	6.0	10.5	4.2	2.5	3.0	3.6	4.3
消費者物価上昇率(対前年同期末比:%)	8.1	11.2	1.6	4.7	11.0	9.5	5.8	2.2	2.2	1.8
国内貨物輸送(百万トンキロ)	4,418	5,427	6,604	7,504	9,169	10,822	2,415	2,762	5,177	-
国内鉄道貨物輸送(百万トンキロ)	4,283	5,288	6,461	7,253	8,878	9,948	2,304	2,558	4,862	828
登録失業者(千人)	38.6	40.3	30.9	33.3	35.6	32.9	33.8	34	34	34
対ドル為替レート(トグリグ、期末)	1,097	1,102	1,125	1,168	1,209	1,221	1,174	1,172	1,172	1,169
貿易収支(百万USドル)	78.7	116.2	166.8	185.1	151.4	95.0	3.2	2.4	5.6	0.9
輸出(百万USドル)	536	522	524	616	870	1,054	230	382	612	145
輸入(百万USドル)	615	638	691	801	1,021	1,149	233	384	617	144
国家財政収支(十億トグリグ)	78.6	50.4	71.6	61.9	16.4	60.4	35.3	98.5	133.8	30.1
家畜頭数(百万頭)	30.2	26.1	23.9	25.4	28.0	30.4	-	-	-	-
成畜死亡数(千頭)	3,491	4,759	2,918	1,324	292	677	62	260	322	-

(注)登録失業者数、家畜頭数は期末値。

(出所)モンゴル国家統計局「モンゴル統計年鑑」、「モンゴル統計月報」各号ほか